

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------------|----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------|-----|------------|-----|------|
| 科目名 | 病理学4 (各論) | | | | | | | 年度 | 2026 |
| 英語科目名 | Pathology 4 (Detailed exposition) | | | | | | | 学期 | 前期 |
| 学科・学年 | 柔道整復科 3年次 | 必/選 | 必 | 時間数 | 15 | 単位数 | 1 | 種別※ | 講義 |
| 担当教員 | 岡本純佳 | 教員の実務経験 | | 有 | 実務経験の職種 | | 医師 (病院勤務医) | | |
| 【科目の目的】 病理学を習得して柔道整復師が現場での適切な施術を行う基盤をつくることを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 【科目の概要】 各疾病の特徴を学びます。 | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 病理学は、病気で異常になった部位（病変部）を目で見て（肉眼的観察）、顕微鏡でさらに詳しく見て（顕微鏡的観察）、どのような変化があるのか、どのような状態なのか、原因は何か、などを論理的に読み解いていく学問である。病理学を学ぶことで医療現場における施術の土台を形成することを目標としている。 | | | | | | | | | |
| 【授業の注意点】 国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。 | | | | | | | | | |
| 評価基準＝ルーブリック | | | | | | | | | |
| ルーブリック評価 | レベル5 優れている | レベル4 よい | レベル3 ふつう | レベル2 あと少し | レベル1 要努力 | | | | |
| 到達目標 A | 先天性異常について完全に理解している。 | 先天性異常について大理解している。 | 先天性異常について部分的に理解している。 | 先天性異常についての理解がやや不足している。 | 先天性異常について理解していない。 | | | | |
| 到達目標 B | 病因について完全に理解している。 | 病因について大理解している。 | 病因について部分的に理解している。 | 病因についての理解がやや不足している。 | 病因について理解していない。 | | | | |
| 到達目標 C | 感染性疾患と骨および軟部腫瘍について完全に理解している。 | 感染性疾患と骨および軟部腫瘍について大理解している。 | 感染性疾患と骨および軟部腫瘍について部分的に理解している。 | 感染性疾患と骨および軟部腫瘍についての理解がやや不足している。 | 感染性疾患と骨および軟部腫瘍について理解していない。 | | | | |
| 到達目標 D | 全身性の骨・軟部疾患と骨端症について完全に理解している。 | 全身性の骨・軟部疾患と骨端症について大理解している。 | 全身性の骨・軟部疾患と骨端症について部分的に理解している。 | 全身性の骨・軟部疾患と骨端症についての理解がやや不足している。 | 全身性の骨・軟部疾患と骨端症について理解していない。 | | | | |
| 到達目標 E | 四肢循環障害と神経・筋疾患について完全に理解している。 | 四肢循環障害と神経・筋疾患について大理解している。 | 四肢循環障害と神経・筋疾患について部分的に理解している。 | 四肢循環障害と神経・筋疾患についての理解がやや不足している。 | 四肢循環障害と神経・筋疾患について理解していない。 | | | | |
| 【教科書】 教科書は「病理学概論」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。 | | | | | | | | | |
| 【参考資料】 | | | | | | | | | |
| 【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。 | | | | | | | | | |
| ※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。 | | | | | | | | | |

| 科目名 | | 病理学4 (各論) | | | 年度 | 2026 |
|------|----------------|-----------------------------------|-------------|--|------|------|
| 英語表記 | | Pathology 4 (Detailed exposition) | | | 学期 | 前期 |
| 回数 | 授業テーマ | 各授業の目的 | 授業内容 | 到達目標＝修得するスキル | 評価方法 | 自己評価 |
| 1 | 先天性異常① | 総論を理解する。 | 1 先天性異常とは | 生まれながらにして存在する生理機能的異常と形態的異常について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 奇形とは | 先天性異常のうちの形態的異常について理解する。 | | |
| | | | 3 奇形の原因 | 染色体や遺伝子の異常・胎児期環境の影響について理解する。 | | |
| 2 | 先天性異常② | 単因子性遺伝の形式をとる疾患を理解する。 | 1 伴性劣性遺伝病 | 代表例である血友病・緑色盲・伴性無ガンマグロブリン血症などについて理解する。 | 3 | |
| | | | 2 常染色体優性遺伝 | 代表例であるマルファン症候群について理解する。 | | |
| | | | 3 常染色体劣性遺伝 | 代表例である糖原病・ウィルソン病について理解する。 | | |
| 3 | 先天性異常③ | 染色体異常に基づく疾患を理解する。 | 1 染色体異常の基本型 | 数と形態の異常について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 常染色体異常 | 代表例であるダウン症候群について理解する。 | | |
| | | | 3 性染色体異常 | ターナー症候群・クラインフェルター症候群について理解する。 | | |
| 4 | 先天性異常④ | 奇形の原因を理解する。 | 1 胎児への環境的影響 | ウイルス・放射線・薬剤・毒物などについて理解する。 | 3 | |
| | | | 2 奇形成立の時期 | 大多数の奇形が妊娠3～10週末までの胎芽期に成立することについて理解する。 | | |
| | | | 3 奇形の種類 | 二重体・単体奇形について理解する。 | | |
| 5 | 病因① | 病因の一般を理解する。 | 1 疾病の発生原因 | 内因と外因の分類について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 内因とは | 遺伝・免疫・素因・精神活動など固体内の異常が病因であることを理解する。 | | |
| | | | 3 外因とは | 病原微生物・放射線・化学物質・環境が与える因子が病因であることを理解する。 | | |
| 6 | 病因② | 内因を理解する。 | 1 素因と体質 | 年齢・性・人種・臓器、個人的な体質について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 遺伝 | 突然変異について理解する。 | | |
| | | | 3 内分泌障害 | ホルモン分泌の機能亢進と機能低下について理解する。 | | |
| 7 | 病因③ | 外因を理解する。 | 1 栄養障害 | メタボリック症候群・悪性貧血について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 化学的外因 | イタイイタイ病について理解する。 | | |
| | | | 3 生物学的外因 | MRSAによる院内感染について理解する。 | | |
| 8 | 振り返り | 前期1回～7回の講義の振り返り。 | 1 先天性異常とは | 生まれながらにして存在する生理機能的異常と形態的異常について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 奇形とは | 先天性異常のうちの形態的異常について理解する。 | | |
| | | | 3 疾病の発生原因 | 内因と外因の分類について理解する。 | | |
| 9 | 運動器の病理① | 感染性疾患と骨および軟部腫瘍を理解する。 | 1 感染性疾患 | 代表例の急性可能性骨髄炎・化膿性関節炎について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 悪性骨腫瘍 | 代表例の骨肉腫・ユーイング肉腫について理解する。 | | |
| | | | 3 良性骨腫瘍 | 代表例の巨細胞腫・骨軟骨腫について理解する。 | | |
| 10 | 運動器の病理② | 非感染性軟部・骨関節疾患について理解する。 | 1 変形性関節症 | 股関節・膝関節・肘関節などへの影響について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 関節リウマチ | 慢性進行性の関節炎を主徴とする疾患について理解する。 | | |
| | | | 3 骨粗鬆症 | 原因として内分泌の影響、加齢、代謝障害であることを理解する。 | | |
| 11 | 運動器の病理③ | 全身性の骨・軟部疾患について理解する。 | 1 軟骨無形成症 | 軟骨性骨化を起こす軟骨形成が障害され骨形成が早期に停止することを理解する。 | 3 | |
| | | | 2 モルキオ病 | 体幹短縮型低身長症の代表的疾患であることを理解する。 | | |
| | | | 3 マルファン症候群 | 身長は高く四肢は細長く指趾が長くクモ指趾とも呼ばれることを理解する。 | | |
| 12 | 運動器の病理④ | 骨端症と四肢循環障害について理解する。 | 1 骨端症の定義 | 成長期の骨端部に虚血性骨壊死が生じた種々の病態について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 末梢動脈疾患 | 閉塞性血栓性血管炎・閉塞性動脈硬化症について理解する。 | | |
| | | | 3 レイノー症候群 | 原因疾患があって二次性レイノー現象を生じる疾患であることを理解する。 | | |
| 13 | 運動器の病理⑤ | 神経・筋疾患について理解する。 | 1 上肢神経麻痺 | 代表例である橈骨神経麻痺について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 下肢神経麻痺 | 代表例である総腓骨神経麻痺について理解する。 | | |
| | | | 3 全身性神経・筋疾患 | 代表例である進行性筋ジストロフィーについて理解する。 | | |
| 14 | 振り返り | 前期9回～13回の講義の振り返り。 | 1 感染性疾患 | 代表例である急性可能性骨髄炎・化膿性関節炎について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 変形性関節症 | 股関節・膝関節・肘関節などへの影響について理解する。 | | |
| | | | 3 骨端症の定義 | 成長期の骨端部に虚血性骨壊死が生じた種々の病態であることを理解する。 | | |
| 15 | 病理学4 (各論) のまとめ | 前期病理学4 (各論) 全体の振り返り。 | 1 染色体異常の基本型 | 数と形態の異常について理解する。 | 3 | |
| | | | 2 疾病の発生原因 | 内因と外因の分類について理解する。 | | |
| | | | 3 骨粗鬆症 | 原因として内分泌の影響、加齢、代謝障害であることを理解する。 | | |

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等